

シーン ー3 環境影響生物基礎調査事業

事業目的

県内の猛禽類について、東日本大震災による津波被害を含む環境の変化を踏まえ、生息状況を把握し、情報と知見を蓄積するとともに、猛禽類保護思想の普及啓発(CEPA)の推進、森林行政との連携等、当県としての保護方を再検討する。

事業効果

CO2削減効果	-
その他	-

事業内容

【事業概要】
希少猛禽類の生息等に関する現地調査及び保護施策検討会の開催

【実施主体】 宮城県

【事業期間】 平成26～27年度

【平成26年度事業費】 7,118千円

番号	目	科	種名	指定状況			
				文化財保護法	種の保存法	環境省 RL 宮城県 RL	
1	タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT	
2		タカ	ハチクマ			NT	NT
3			オジロワシ	天然	国内	EN	VU
4			オオワシ	天然	国内	VU	VU
5			チュウビ			EN	NT
6			ツミ				DD
7			ハイタカ			NT	NT
8			オオタカ		国内	NT	NT
9			サシバ			VU	VU
10			イヌワシ	天然	国内	EN	CR+ EN
11			クマタカ		国内	EN	CR+ EN
12	ハヤブサ	ハヤブサ	チゴハヤブサ				注目
13			ハヤブサ		国内	VU	NT

現 状

県内の猛禽類の生息状況や保護方は、平成12年3月に「宮城県猛禽類生息調査報告書」をとりまとめたから10年以上が経過。東日本大震災による津波被害を含む自然環境の変化等の影響を踏まえた保護方の検討が必要。



オオタカ

税導入後のイメージ

猛禽類の保全技術の体系的整理、県民に対する情報・教育・普及啓発等「保護保全施策」の策定により、生物多様性の保全に資するもの。



イヌワシ